

Apache Log4j RCE の脆弱性.....	1
改良点.....	1
修正済みの問題.....	3
既知の制限事項.....	6
PowerExchange 10.5.2 のインストールとアップグレード.....	9
Informatica グローバルカスタマサポート.....	9

『Informatica(R) PowerExchange(R)リリースノート』を読み、PowerExchange 10.5.2 の改良点、修正済みの問題、および既知の問題に関する重要な情報を得てください取得してください。さらに、リリースノートには、アップグレードに関する考慮事項もが含まれています（該当する場合）。

PowerExchange 10.5.2 ドキュメントセットにアクセスするには、<https://docs.informatica.com> で Informatica Documentation Portal を参照してください。

## Apache Log4j RCE の脆弱性

PowerExchange 10.5.2 は Log4j ライブラリバージョン 2.17.1 を採用しています。

## 改良点

以下の表に実装された拡張要求を示します。

改良点	説明
PWX-10290	DBMOVER 構成メンバーの IMSID ステートメントで、DBD ライブラリの名前の代わりに DD: <i>ddname</i> を入力できるようになりました。この DD は、対象の DBD を検索するための 1 つ以上の DBDLIB を含む JCL 内の //DD ステートメントを指します。DD は、DBDLIB アクセスを必要とするコンポーネントの JCL に含まれている必要があります。
PWX-10173	PowerExchange Express CDC for Oracle は、OPTIONS ステートメントで新しい SUPPORT_COL_ENCRYPTION パラメータが Y に設定されている場合に、Oracle カラムレベルの暗号化をサポートするようになりました。PowerExchange は、取り込まれた暗号化された Oracle ソーステーブルカラムのデータを復号化できます。
PWX-10158	PWXUCREG ユーティリティを使用して、非アクティブなキャプチャ登録を CCT ファイルから削除できるようになりました。

改良点	説明
PWX-10153、 PWX-9928、 および PWX-9822	PowerExchange Express CDC for Oracle のパフォーマンス拡張は、このリリースに含まれています。
PWX-10065	IBM i システム上の同じ PowerExchange 環境で複数の PowerExchange リスナを実行できます。リスナインスタンスごとに、DATALIB に個別のメッセージキューを作成する必要があります。
PWX- 10061	PowerExchange Express CDC for Oracle は、バルクデータ移動および CDC 用に Red Hat Linux および Windows における Oracle21c ソースのサポートを追加します。このバージョンは、Amazon RDS for Oracle ソースではサポートされていません。
PWX- 10015	PostgreSQL CDC の場合、PG CAPI_CONNECTION ステートメントの新しい CAPTUREALL パラメータを使用して、PowerExchange がレプリケーションストアテーブルに対して、ソースデータベースからのすべての DML 変更を書き込むか、登録済みソーステーブルからの変更のみを書き込むかを制御できます。
PWX- 10006	z/OS 上の PowerExchange リスナは、メッセージングの改善や新しい DBMOVER 構成ステートメントなど、メモリ管理を改善しました。 CONVERT_CODEPAGES_WITH_ICONV ステートメントは、複雑なコードページのメモリ使用量を改善します。アドレス空間に実行に使用できる十分な拡張メモリがない場合、リスナは着信 PowerExchange タスクの受け入れを一時停止します。最小メモリのデフォルトは 50MB ですが、JOB_START_MINIMUM_MEMORY_MB ステートメントで変更できます。
PWX- 10000	PWXCATMY ユーティリティのコマンドステートメントで、新しい CATEPASSWORD および EPASSWORD パラメータを使用して、MySQL カタログテーブルにアクセスするユーザーおよびソーステーブルが存在するホストに接続するユーザーの暗号化されたパスワードを入力できます。
PWX-9977	ラージフォーマットの物理シーケンシャル（PS）データセットを割り当てるために、PowerCenter NRDB 接続プロパティの PWX Override フィールドで DSNTYPE=LARGE を指定できるようになりました。
PWX-9946	Db2 for i CDC の場合、AS4JCAPI_CONNECTION ステートメントおよび PowerCenter DB2i5OS CDC アプリケーション接続の PWX オーバーライドフィールドで新しい RTNBUFFSIZE パラメータを使用して、IBMQjoRetrieveJournalEntriesAPI への PowerExchange 呼び出しの結果として生じるジャーナルエントリを収集するために使用されるバッファのサイズを調整します。このパラメータを使用して、パフォーマンスを調整できます。
PWX-1229	PowerExchange Navigator のデータマップでデータベース行テストを実行するには、最初にデータマップをリモートノードに送信する必要がありました。それ以降のバージョンのデータマップがリモートノードに存在する場合、ローカルマシンから送信されたバージョンがそれをオーバーレイし、問題が発生する可能性があります。この修正により、リモートノードで既存のデータマップを使用するか、ローカルマシンからデータマップを送信するかを選択できます。新しい設定により、データマップを管理する開発者のみが、行テストを実行する前にデータマップを送信するように求められるかどうかが決まります。

## 修正済みの問題

以下の表に、修正済みの問題を示します。

バグ	説明
PWX-10308	PowerExchange10.5.0 または 10.5.1 DTLUCBRG ユーティリティを実行している場合、インスタンス名はデフォルトでは抽出されない。
PWX- 10262	Db2 for z/OS ECCR がテーブルの Db2 ログレコードを処理しているときに、無効な行長が発生する可能性がある。
PWX- 10252	PowerExchange Express CDC の実行中に、PowerExchange ロggerが次のエラーで失敗する。  PWX-36230 ORAD ERROR: Row Operation error Invalid operation for INSERT (KDO). Op code=11.5 in module PwxOrl0pa:5529.
PWX- 10248	SAP HANA CDC の実行中に、小さい MaxTransaction サイズが指定されている場合、行が返されない場合がある。
PWX- 10236	SAP HANA CDC の実行中に、計算されたフィールド長の 255 バイトが最大値の 16 を超えると、障害が発生する可能性がある。
PWX- 10230	z/OS インストーラのアップグレードでは、以前のすべてのバージョンがリスト表示されるわけではない。
PWX- 10226	PowerExchange Express CDC for Oracle ソースの場合、PowerExchange ロggerは BASICFILE LOB カラムのデータを取り込むが、PowerExchange Navigator の行テストに対してカラムデータは表示されない。
PWX- 10220	SAP HANA CDC ソースの場合、PKLOG テーブルの APPLICATION_USER カラムが空の場合、CDC キャプチャプロセスは内部エラーで失敗する。
PWX- 10215	IMS バルクデータ移動中に SQL 256 エラーが発生した場合、ステータスまたは失敗したセグメントを特定する手段は提供されない。
PWX- 10204	10.5.1 では、PowerExchange Express CDC for Oracle ソースの LOB カラムおよび CLOB カラムに対して補足ログが有効になっていない場合、PowerExchange ロggerは失敗する。
PWX-10191	PowerExchange DTLURDMO ユーティリティを Microsoft SQL ソースで実行すると、正しい NEW_DBID が適用されない。
PWX-10182	この問題は、z/OS で PowerExchange リスナを実行し、サブタスクがトレースサブタスクのバッファに書き込もうとして、トレースシリアル化リソースの排他キュー追加を取得した場合に発生する可能性がある。トレースサブタスクはファイルのフル状態を検出し、次のログファイルを開こうとするが、ログファイルは開かない。同じキュー追加ストールを待機していて、完了しない他のサブタスク。
PWX-10168	LUW システムで DTLURDMO ユーティリティーを使用してデータマップをコピーするときに、SELECT または EXCLUDE ステートメントで 10 バイトより長いデータマップ名を指定すると、マップ名が長すぎるというエラーメッセージが報告される。LUW では、13 バイトの制限が好ましいです。
PWX-10167	Windows 2019 の PowerExchange インストーラは、次のエラーで失敗する。  Flexeraaw_\$aaa: Windows DLL failed to load ...

バグ	説明
PWX-10164	DTLURDMO ユーティリティを使用して CCT ファイルをコピーして登録を 10.2 から 10.5.1 に移行した後、PowerExchange Navigator の行テストと PowerExchange ロgger が失敗する。
PWX-10160	PowerExchange 10.4.1 では、Db2 for i ターゲットテーブルを切り詰めると、スキーマのオーバーライドが提供されない限り、PowerCenter セッションが失敗する。以前のリリースでは、ライブラリリストが指定されている場合、スキーマのオーバーライドは必要ありませんでした。
PWX-10133	DTLUCBRG ユーティリティを実行して SQL Server キャプチャ登録のステータスを非アクティブまたはアクティブに変更すると、次のエラーが発生する。  PWX-15709 Publication article for database <i>database</i> table <i>table_name</i> failed validation. Reason: Column <i>column_name</i> not found.
PWX-10132	IMS 同期 CDC 環境では、パッチ P809342 を適用した後、EDMCIRDB モジュールで S0C4 異常終了が発生する。
PWX-10130	z/OS では、SVC99()呼び出し後に、プールゼロでの LSQA メモリーリークが発生する可能性がある。ただし、この問題に関する明確な情報メッセージは提供されていません。
PWX-10127	PowerExchange Express CDC for Oracle の場合、ステージングファイルのサイズが TARGETSIZE パラメータの最大 REDO ログチャンクサイズより大きく、PowerExchange ロgger ユーザーが ASM ステージングディレクトリへの書き込み権限を持っていない場合、ASM ステージングファイルは効果がない。
PWX-10114	バッチセッションが複数のパーティションを持つ Db2 for z/OS 圧縮イメージコピーを読み取ろうとすると、前のパーティションからのデータに誤った解凍ディクショナリを使用したため、セッションが失敗する。
PWX-10107	Db2 for i ソースを処理するときに、CAPTPARM ファイルで KEY_CHANGE_ALW=Y が指定されている場合、PowerExchangeCondense が失敗する。
PWX-10080	PowerExchange Express CDC for Oracle の場合、メモリ使用率を構成する機能が必要である。
PWX-10078	DL/I バッチジョブが変更データの取得元である VSAM ファイルに変更を加え、IMS 同期 CDC が変更を取得元の IMS データベースの前に VSAM ファイルが開かれた場合、EDMCICMM モジュールは S0C4 で異常終了する。
PWX- 10063	PowerExchange 10.5.1 では、PWXEDM172810W メッセージが戻りコード 8 および理由コード 18 で発行される場合があり、これにより、z/OS 上の PowerExchange ロgger、リスナ、または ECCR で遅延またはハングが発生する可能性がある。
PWX- 10052	Db2 for i ジャーナルレシーバを削除しようとする、次のエラーで失敗する可能性がある。  Failed to open PowerExchange Journal Receiver Lock File.
PWX- 10039	Linux、UNIX、および Windows システムの ODBC データソースでは、いくつかのタイムアウトの問題が発生する可能性がある。
PWX- 10020	登録を読み取るために CCT ファイルにアクセスするユーザー ID には、更新権限が必要である。ただし、より詳細なセキュリティモデルを実装するには、読み取り権限が好ましいです。

バグ	説明
PWX-9999	DBTYPE が VSAM の場合、DTLURDMO ユーティリティの REG_COPY MODIFY FN ステートメントは、登録名の変更に失敗する。
PWX-9976	RUNLIB ライブラリの RSTRDSUE JCL で、z/OS インストールアシスタントに入力された HLQ が、CDEP ファイルの誤った高位修飾子に置き換えられた。
PWX-9975	SAP HANA CDC 処理が、大きな UOW を処理するときにスタックオーバーフローで異常終了する。
PWX-9972	PowerExchange Express CDC for Oracle で、IOT テーブルの更新を処理するときに、次の カラム変換エラーが発生する。 PWX-36219 Column conversion for DATETIME failed.
PWX-9965	DBMOVER ファイルでは、SVCNODE ステートメントの最大数が 10 に制限されているが、これは制限が強すぎる。
PWX-9942	PowerExchange Express CDC for Oracle ログリーダーが ARCHIVECOPY モードを使用している場合、PWX-36115 メッセージは情報メッセージとして誤って報告され、エラーブロックに書き込まれない。その後、CDC 処理が終了する。
PWX-9936	PowerExchange Express CDC for Oracle ARCHIVECOPY 機能に改善が必要である。
PWX-9933	z/OS で、SMF 統計が収集されていて、タスクが 40 を超える DBCB を使用している場合、次のプログラムロジックエラーのために処理が失敗する。 PWX-00999 Program logic error. Prog="DTLMEM". Line=2444. P1="MEM_Realloc. OldLen=160 NewLen=80 pOldMem=2E014050 Poolid='DTLDMSMF' Old length longer than new length". P2=160.
PWX-9928	PowerExchange Express CDC for Oracle の場合、Oracle ログから大規模なトランザクションを読み取るときのスピルファイル処理を改善する。
PWX-9920	TIME カラムを含む SAP HANA CDC ソースの場合、PowerExchange は TIME カラムデータを誤って複製する。
PWX-9912	PowerExchange Navigator および DTLUCBRG ユーティリティで IBM i および IBM z/OS CDC ソースに入力できるキャプチャ登録名の最大長を 8 文字から 10 文字に増やす必要がある。
PWX-9902	SAP HANA CDC ソースの場合、1000 行以上のテーブルでトリガスクリプトを生成しようとすると失敗する。
PWX-9891	トレースサブタスクでログファイルを開くときにエラーが発生した後、PowerExchange リスナが停止する。
PWX-9723	CICS/VSAM CDC の実行中に、FC 出口点 XFCLDEL で実行されている EDMKLD70 プログラムが最大データの 4000 バイトを超える TRACE DOMAIN への XPI 呼び出しを発行したと、CICS が判断すると、バックアウト障害が発生する。
PWX-9560	SAP HANA CDC ソースの場合、PowerExchange は ROW テーブルをサポートしていない。
PWX-8994	PowerExchange が再起動トークンに一致する複数のジャーナルレシーバを検出した場合、Db2 for i CDC セッションの再起動が失敗する。この修正により、PowerExchange はエラーメッセージを発行してユーザーにこの状況を通知します。

バグ	説明
PWX-8839	UNIX 上のソースの PWXPC アプリケーション接続で <b>接続リトライ期限</b> プロパティを設定した場合、接続の再試行中に致命的なエラーが発生する。
PWX-1229	PowerExchange Navigator のデータマップでデータベース行テストを実行するには、最初にデータマップをリモートノードに送信する必要があります。それ以降のバージョンのデータマップがリモートノードに存在する場合、ローカルマシンから送信されたバージョンがそれをオーバーレイし、問題が発生する可能性があります。この修正により、リモートノードで既存のデータマップを使用するか、ローカルマシンからデータマップを送信するかを選択できます。新しい設定により、データマップを管理する開発者のみが、行テストを実行する前にデータマップを送信するように求められるかどうかが決まります。

## 既知の制限事項

次の表に、既知の問題を示します。

バグ	説明
PWX-9939	PowerCenter アプリケーション接続の【パスワード】フィールドにアポストロフィを含むパスフレーズを入力した場合、セッションが失敗する。 回避策: アポストロフィを含むパスフレーズを指定しないでください。
PWX-9907	SAP HANA CDC ソースの場合、異なるスキーマの複数の登録済みテーブルが同じ名前を持っていると、PowerExchange キャプチャ処理が PWX-09964 エラーメッセージで失敗する。このエラーは、テーブルがアクティブであるか履歴テーブルであるかに関係なく発生する可能性があります。 回避策: PowerExchange に登録されている各 SAP HANA テーブルに一意の名前が付いていることを確認してください。可能であればスキーマを参照してください。
PWX-9859	PostgreSQL インストールが scram-sha-256 パスワード暗号化方法を使用するように設定されている場合、PowerExchange データベース接続は失敗する。 回避策: postgresql.conf 構成で password_encryption = md5 を設定して、scram-sha-256 暗号化を無効にしてください。
PWX-9647	処理中に、代替ログが有効になっている場合、IBM i の PowerExchange リスナが接続エラーで断続的にハングすることがある。 回避策: 代替ログを無効にして、ジョブをもう一度実行してください。
PWX-9473	DTLUCBRG ユーティリティを使用して IDMS キャプチャ登録を作成した場合、ジョブが RC=00 で終了したにもかかわらず正しいキャプチャ登録が作成されない。
PWX-9014	PowerExchange Navigator で IDMS キャプチャ登録のパスを表示できない。
PWX-8930	IMS ログベースの ECCR REFRESH コマンドにより、ECCR が異常終了する。
PWX-8563	PowerExchange Navigator で SQL Server キャプチャ登録を開いて【保存】をクリックすると、PowerExchange Navigator によって新しい Microsoft SQL Server アーティクルが作成され、登録が変更されていない場合でも以前のアーティクルが削除される。以前の SQL Server アーティクルに関連するデータが削除される。 回避策: キャプチャ登録を変更する場合にのみ、【保存】をクリックしてください。

バグ	説明
PWX-8527	PowerExchange IMS ECCR REFRESH 操作後に IMS ログを削除すると、CDC 処理が SVC99 エラーで失敗する場合があります。 回避策: 変更キャプチャが発生するシステムで、IMSCCR および PowerExchange リスナを停止して再起動します。
PWX-8333	PowerExchange Express CDC for Oracle の実行中に、行がチェーンされた OVERFLOW テーブルを含むインデックス付きオーガナイズテーブル (IOT) でトランザクションアセンブラエラーが発生する場合があります。次のエラーメッセージが表示されます。  PWX-36465 ORAD Info: DML sequence error: Subordinate DML sequence and active DML sequence is not only kdolkr/kdolmn/kdollar.
PWX-8097	derive_cdct_backup コマンドを実行し、破損している PowerExchange ロgger ログレコードを処理しようとする、セグメンテーションエラーで PWXUCDCCT ユーティリティが失敗する。ユーティリティが発行するメッセージには有用な診断情報が含まれていません。 回避策: PowerExchange ロgger 構成ファイルの EXT_CAPT_MASK パラメータの値が正しいこと、ロgger ログファイルが存在することを確認します。
PWX-7917	非リレーショナルターゲットの PWXPC 接続定義で <b>【接続ごとに Pre SQL を 1 回実行】</b> チェックボックスをオンにすると、 <b>【Pre SQL】</b> 接続属性で指定した SQL ステートメントが実行されない。 回避策: <b>【接続ごとに Pre SQL を 1 回実行】</b> チェックボックスをオフにして、接続に対してその SQL を 1 回以上実行できるようにします。
PWX-7202	PWX NRDB ルックアップリレーショナル接続を使用する PowerCenter セッションを定義し、 <b>【PWX オーバーライド】</b> 接続属性に TCPIP_OP_TIMEOUT および TCPIP_CON_TIMEOUT オーバーライドを設定した場合、セッションが失敗する。 回避策: 接続文字列を使用してオーバーライドを指定します。
PWX-7104	z/OS システム上の ECCR に対して displaystats などの pwxcmd コマンドを発行すると、pwxcmd コマンドハンドラがハングする可能性があります。この問題は、コマンド出力の量が 4 KB を超える場合に発生します。
PWX-7033	PowerExchange エージェントが DBMOVER 構成ファイルでエラーを検出した場合、期待どおりに処理が終了しない。その結果、エージェントは変更データのキャプチャのために PowerExchange リスナに正常に接続できない。 回避策: SHUTDOWN COMPLETELY コマンドを使用して PowerExchange エージェントをシャットダウンします。DBMOVER 構成ファイルを編集してエラーを修正し、PowerExchange エージェントを再起動します。
PWX-6917	z/OS 上の PowerExchange で、TCP/IP 接続に IPV6 プロトコルを使用すると、SMF レポートで IP アドレスが切り詰められます。接続には影響しませんが、SMF で IP アドレスが不完全になります。
PWX-2031	非表示カラムを DB2 for i テーブルのキャプチャ登録に追加すると、PowerExchange の抽出処理が異常終了し、非表示カラムごとに次のエラーメッセージが表示される。  PWX-06714 Table <i>schema.table_name</i> Field <i>field_name</i> missing (DB2 for i5/OS CDC)  このエラーは、PowerExchange が非表示カラムを検出できないために発生します。 回避策: PowerExchange Navigator に非表示カラムを含むテーブルを登録して、非表示カラムをキャプチャ登録から選択的に省くことができるようにします。(463305)

バグ	説明
PWX-1971	Linux データ統合サービスマシンで、DBMOVER 構成ファイルの LOGPATH 文で定義されたディレクトリパスのファイル権限が適切に設定されていない場合、コアダンプが発生し、Java Runtime Environment の致命的なエラーが報告される。 回避策: ファイル権限に制限をかけすぎないようにします。755 の権限で十分です。(459102)
PWX-1672	PowerExchange ナビゲータでの IMS 複合テーブルソースに対する CAPXRT データベース行のテストで、PowerExchange ロgger (z/OS 用) にソース用のデータが含まれる場合でも、変更が返されない。この問題は、以前の登録と同じタグ名を持つソース用にキャプチャ登録が再作成され、新しい登録に追加の IMS セグメントが含まれる場合に発生します。結果として、PowerExchange は新しい登録を PowerExchange ロgger ログファイルのデータにマップできません。 回避策: ありません。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。(409991)
PWX-1521	範囲パーティション化を使用する DB2 for Linux, UNIX, and Windows ソーステーブルから変更データをキャプチャし、パーティションを追加、接続、または切断する DDL 操作がそのテーブルで実行される場合、データ消失が発生し、ターゲットでデータが破壊される場合がある。 回避策: ソーステーブルでパーティションを追加、接続、または切断する DDL 文を発行しないでください。ソースでこのような DDL 操作を実行する必要がある場合は、CDC 処理を開始する前に、PowerExchange バルクデータ移動が別のツールを使用して、ソーステーブルとターゲットテーブルを同期します。(395055)
PWX-1387	PowerCenter を使用して PowerExchange ターゲットに更新を書き込み、更新に失敗した場合、PowerCenter セッションログのロード要約に、更新された行数として正しくない数が表示される。例えば、ターゲットレコードが存在しないために、更新が失敗する場合がある。(375568)
PWX-1271	「ß」やウムラウトのある母音など、特定のドイツ語文字を含むコピーブックを PowerExchange データマップにインポートするとき、これらの文字を含む行がインポートされない。 回避策: ドイツ語文字がコメントにある場合、そのコメントを編集し、それらの文字を削除または置き換えます。(350646)
PWX-1184	PowerExchange ナビゲータでデータマップを作成するとき、PL/I コピーブックをインポートし、行シーケンス番号を含むカラム範囲を定義する【先頭】および【末尾】値を入力すると、PowerExchange ナビゲータが間違って「NEW_RECORD__」レコードを追加することがあり、作成に失敗するか、予想外の結果が生成される。 回避策: PL/I コピーブックをインポートする場合は、カラム範囲を定義しないか、または行シーケンス番号を含むカラム範囲のデフォルトをそのまま使用します。(331003)
PWX-1143	PowerExchange Navigator から z/OS ソースの PL/1 コピーブックをデータマップにインポートすると、インポートに成功してもインポートレコードが作成されない。
PWX-825	パスワード保護された Adabas データソースを含み、CAPXRT アクセス方式とオフロード処理を使用する CDC セッションを実行する場合、セッションは失敗する。(257540)

**注:** 現在のバグ追跡システムでは、「PWX-」プレフィックスで始まるバグ ID が使用されます。以前の追跡システムは、6 つの数字で構成されるバグ ID を使用していました。以前のリリースから引き継がれている既知の制限については、PWX-nnnn バグ ID が設定されていますが、以前のバグ ID を説明の最後に括弧で囲んで記してあります。

## PowerExchange 10.5.2 のインストールとアップグレード

完全インストールまたはアップグレードインストールについては、『PowerExchange 10.5.2 インストールおよびアップグレードガイド』の手順を参照してください。

## Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network を介してグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network のオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスして eSupport オプションを選択します。